

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語】

### 1. 対象 5年生

興味のあることや指示された単純なことに関しては、一生懸命に取り組むが、自分で課題を見つけて追及したり、難しい課題に粘り強く取り組んだりする点において難しさがある。特別な支援を要する子供も多いこともあり、子供理解を深め、適切な支援や配慮をすることで、進んで学ぶ子供を育成することを研修テーマとして授業改善に当たっている。外国語の授業において、間違えを恐れずに積極的に英語を話そうとしている子供が多い。しかし、習った表現を機械的に唱えているせい、分からないと黙ってしまい、何とか相手に考えや気持ちを伝え、コミュニケーションを楽しむという理想の姿からは遠い児童も多い。そのため、本授業の中では、子供が必要感をもってコミュニケーションを図れる場面設定をし、情報を整理しながら考えを再構築することで、生きた英語を使い、技能を高めていけるようにしたい。

### 2. 単元名「He can bake bread well. ～友達の意外な一面が、聞く人の心に残る友達紹介をしよう～」

(全8時間)

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力(話すこと[やり取り/発表])

知識及び技能	多くの友達に、紹介する友達の意外な一面を知ってもらうために、I/You/He/She can～. Can you ～? Who is ～? This is ～. およびその関連語句について理解し、自分や第三者のできることについて、上記の表現を用いて、お互いの考えを伝え合うための技能を身に付ける。
思考力, 判断力, 表現力等	多くの友達に、紹介する友達の意外な一面を知ってもらうために、自分や友達のできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて伝え合うことができる。
学びに向かう力, 人間性等	多くの友達に、紹介する友達の意外な一面を知ってもらうために、自分や友達のできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて伝え合おうとすることができる。

### 4. 本時の目標

多くの友達に、紹介する友達の意外な一面を知ってもらうために、「①よい詳しい情報を入れる②文の順番を工夫する③聞き手に問いかけたり、自分と比べたりする」の3つの視点で、紹介文を推敲する活動を通して、友達や自分のできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて伝えることができる。

### 5. 授業展開【本時・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

#### 解決したい課題や問い

自分の作った紹介文が、聞き手の友達にとって、より心に残るものにするには、どうしたらよいだろうか。

#### 考えるための材料

- ・メタモジのワークシート(品詞と品詞を繋ぐだけで文が作れるワークシート)
- ・デジタル教科書のチャンツ
- ・教師が作ったお手本パワーポイント
- ・紹介文改善のポイントを示した板書

#### 想定される活動

1 warm-up “Can you～?”と問いかけ(例:Can you touch frogs?)子供は心の中で答えを決める。誰が“Yes, I can.”と答えるか予想しながら、それができる人を探す。時間で区切り、見つけた友達を”He/She can～”で紹介する。

- 2 前時の児童の振り返りを提示し、英語表現における困り感やもっとこうしたいという思いを共有し、その思いから本時のgoalを作る。
- 3 友達のできることについて、より詳しく英文を作れている子のよさを紹介する。教師のお手本パワーポイントも合わせて提示する。(視点1)(She can cook.→She can cook chinjaolosu.)
- 4 個人で作業。(いつでもペアと相談できる。)
- 5 中間評価。順番を変えている子をほめ、どうしてその順番にしたのか聞きよさを共有する。(視点2)教師のお手本パワーポイント2も提示する。  
(She can play volleyball. She can play dodgeball. She is active! → She is active!  
She can play volleyball. She can play dodgeball.など)
- 6 個人で作業。(いつでもペアと相談できる。)
- 7 中間評価2。あえてHe / She can't ~.を使っている子がいれば、そのよさを共有する。また、Can you ~?と聞き、聞き手と比べたり、I can/can't~.を使って自分と比べたりしている子がいればそのよさを共有。子供から出なければ、引き出す。(視点3)
- 8 個人で作業。(いつでもペアと相談できる。)
- 9 グループでミニプレゼンをし合い、アドバイスをし合う。
- 10 振り返りをする。(どのように改善されたかについて書く。)

#### 対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

A: This is my friend, D!

She can play the piano.

She can cook cakes.

She is good at home economics.

She is kind.

B:She can cook だけじゃなくて、She can cook cakes.って言ったのが、「お菓子作りできるんだ！意外！すごい！」と思うからいいね。

C:せっかくだから、ピアノも何の曲を弾けるか紹介したら、すごい！ってなるんじゃないかな？

Dちゃん、何弾けるの？

D:~を弾けるよ！

B:すごい！そしてら、She can play the piano. She can play~！って言えるよ。

A:Dさんそうしていいかな？そうするね。

C:あとは、ケーキ作れるのと家庭科が得意なの、どっちが先がいいかな。

家庭科が得意だから、ケーキも作れるみたいな感じで順番が逆でもいいかな？

B:うん、あとは、ケーキ作りって難しいからI can't cook cakes.って入れたら、Dちゃんのすごさが目立つよね。

A:ありがとう。そうするね。

#### 学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

- ・He is active.を最初にもってきたら、〇〇さんってactiveなんだ！とみんなに印象的に思ってもらえると思うからよかった。
- ・can'tを使ったら、聞く人の心に残ると思った。
- ・料理ができるだけじゃなくて、何の料理を作れるか言ったので、よいところ(意外な一面)が伝わると思った。
- ・ただShe can~, She can~, She can~.って書いていたのが、ひとまとまりの文になって、〇〇さんって、こういう人！とはっきり分かる心に残る紹介文になった。